

令和 7 年度 学校関係者評価結果

1. 評価方法

学校運営の透明性を高めるとともに、教育の質の一層の向上を図ることを目的として、自己評価の結果について関係者に対し説明を行い、その後に意見を聴取した

2. 自己評価(詳細は別紙)

	評価項目	評価結果
I	教育理念・教育目的	2.7
II	教育目標	2.8
III	教育課程経営	2.6
IV	教授・学習・評価過程	2.5
V	経営・管理過程	2.3
VI	入学	2.1
VII	卒業・就学・進学	2.5
VIII	地域社会/国際交流	2.2
IX	研究	1.7

3. 学校関係者評価で寄せられた意見

ご意見・ご質問	回答および今後の取り組み
評価は現行の3段階「当てはまる」「やや当てはまる」「当てはまらない」に、「やや当てはまらない」を加えて、4 段階にして 4.0 を満点にした方がより参考になる評価結果が出る	ご提案については、評価の粒度が細くなり、回答者の認識をより正確に反映できるという点で有益であると考えています。 特に、「当てはまらない」とまでは言えないが否定的であるケースを適切に捉えられるようになるため、結果の分布や分析の精度向上が期待できます。また、平均値による比較や経年変化の把握においても、より実態に即したデータが得られる可能性があります。 以上を踏まえ、本評価はご提案の通り 4 段階評価（「当てはまる」「やや当てはまる」「やや当てはまらない」「当てはまらない」）へ移行し、満点を 4.0 とする方針で進めてまいります。
学生確保に関しては様々な取り組みを行っていて、どう教育していくか、質の向上や教育環境の整備もより良くなっていくのが課題ではないか。	アクティブラーニングや反転授業など、学生の主体的参加を促進する授業の開拓に加え、学生が自由に発言できる教育環境づくり、学生自身が成長を実感で

	きる評価方法に関して、さらなる改善に取り組んで参ります。 物理的環境については、学生アンケートおよび教職員の意見をもとに、年度ごとの予算に合わせ整備しております。
病院で卒業生と接している中で、3 年間という期間でしっかり学んできていると感じる	現場でそのように評価いただけていることは、本校の教育内容や指導体制が一定の成果を上げていることの表れであり、教職員にとっても大きな励みとなります。 今後も、基礎的な知識・技術に加え、臨床現場で求められる判断力や主体性を身につけた人材を育成できるよう、教育の質の向上に努めてまいります。
アドミッションポリシーにも主体的とあるが、主体的になるには心理的安全性の確保が必要と感じる。どのような取り組みを行っているか	「こころの小鳥」という学生相談窓口を開設しているが、利用者は少ない現状がありました。開設時間をより利用しやすい放課後にするなど変更を試みております。 2 年前から実施している「学習環境に関するアンケート」調査と、その後の学生・教職員との懇談会を開催し、学生の声を聴きつつ対策を立てていく方法を継続します。 その他、実習施設への移動に関することなど、学習に支障のない実習配置となるよう、今後も配慮して計画して参ります。 学校関係者評価委員からの提案を参考にさせていただき、身体を動かせる場所として多目的ホールの開放を開始しました。学習以外の楽しみを見出せる工夫も取り入れていきたいと考えております。
学生の精神的な健康管理について、どのような対策を行っているか	
学生から授業評価をしてもらい、授業がどうだったかの結果を講師へフィードバックした方がいい。(授業終了時に評価の QR コードを表示して、すぐに結果が出るようにするなど)	いただいたご提案を踏まえ、学生による授業評価の実施および講師へのフィードバック体制の整備を前向きに検討してまいります。運用方法については、回答のしやすさや集計・共有の効率性、講師への適切な還元方法なども含めて検討し、より実効性の高い仕組みの構築を目指します。
ボランティアでは地域活動に参加してもらい助かっている。引き続き、参加をお願いします	学生の社会性の育成の面では地域の方々の協力が大きいと実感しております。今後も継続して連携させていただきたいです。
学校では最新の機器を取り入れて学んでいると感じた	学生が校内教育で活用しているシミュレーションモデルや学習用電子カルテ等に関し、臨地実習指導者として知っておきたいなどの要望がありましたら、随時対応したいと考えております。

外部講師に電子黒板の使い方を教えてほしい。	外部講師向けに電子黒板の基本的な操作方法をまとめたマニュアルの整備や、事前説明・簡易的な操作研修の機会の提供などを検討してまいります。また、授業前に確認できる環境づくりや、トラブル時のサポート体制についてもあわせて整備していく方針です。
-----------------------	--

4.まとめ

関係者からの意見を踏まえ、評価方法については従来の3段階評価から4段階評価(満点4.0)へ移行する方針とした。これにより、回答のばらつきや否定的傾向をより適切に把握でき、分析精度および経年比較の信頼性向上が期待される。

教育面では、学生の主体性を高めることが重要な課題として挙げられており、アクティブラーニングや反転授業の導入を進めるとともに、学生が発言しやすい環境づくりや、成長を実感できる評価方法の改善に取り組む。また、学習環境については学生アンケートや教職員の意見を踏まえ、計画的に整備を進める。

臨床現場からは、本校卒業生が一定の知識・技術を身につけているとの評価が得られており、教育成果が認められている。今後は基礎力に加え、判断力や主体性を備えた人材育成を目指し、さらなる教育の質向上に努める。

学生支援の面では、心理的安全性の確保が重要であるとの指摘を受け、相談窓口の運用改善や「学習環境に関するアンケート」、懇談会の実施を通じて学生の声を把握し、継続的な改善を図る。また、実習配置や移動負担にも配慮し、学習に支障のない環境整備を進める。

授業改善については、学生による授業評価の導入と講師へのフィードバック体制の構築を検討しており、運用面を含めた実効性の高い仕組みづくりを目指す。加えて、多目的ホールの活用など、学習以外の活動環境の充実も図る。

地域連携については、ボランティア活動が地域から評価されており、今後も継続して取り組む。また、教育設備の活用に関する情報共有や、外部講師向けの電子黒板操作支援(マニュアル整備・研修等)についても体制整備を進める。

以上の取り組みを通じ、教育の質向上および学習環境の充実を継続的に推進する。